



歴史的な論文を読む

工学研究科 応用物理学専攻
佐々木 一夫

いまはほとんどの論文がインターネットで入手できる。以前は図書館に行って、雑誌の必要なページをコピーしなければならなかった。コピー機のない時代には、手作業で論文を書き写していたらしい。

工学分館を私が利用するようになったのは工学部に着任してからである。あるとき、量子力学誕生の契機になった歴史的な論文を見たいと思い立って、分館に出かけた。それは1901年に *Annalen der Physik* に掲載されたマックス・プランクの黒体輻射理論の論文である。黒体輻射は、統計力学の重要な応用問題として、どんな教科書にも載っている。講義の準備をされていてこの論文が気になったのだ。工学部創設以前に出版された雑誌をはたして所蔵しているのかと思いつつ探してみると、見つかった。こんなに古い論文を読めるとは、さすが東北大学だと感心したものである。

早速プランクの論文をコピーして読んだ、と
いいたいところだが、原文はドイツ語（論文の
タイトル部分を下に示す）なので歯が立たな
い。しかし、式を追うことで、どういう計算を
しているかはほぼ理解できた。数学が世界共通
語であることを実感したひとときである。

工学分館にまつわる出来事としてはこれくら
いのことしか思い浮かばないが、分館前の池の
水面で反射した朝日が、創造工学センターの建
物に映し出す波の模様が面白くて、デジカメで
撮った写真があるので、これを右に掲げて締め
くくりたい。

